

那覇軍港の返還について

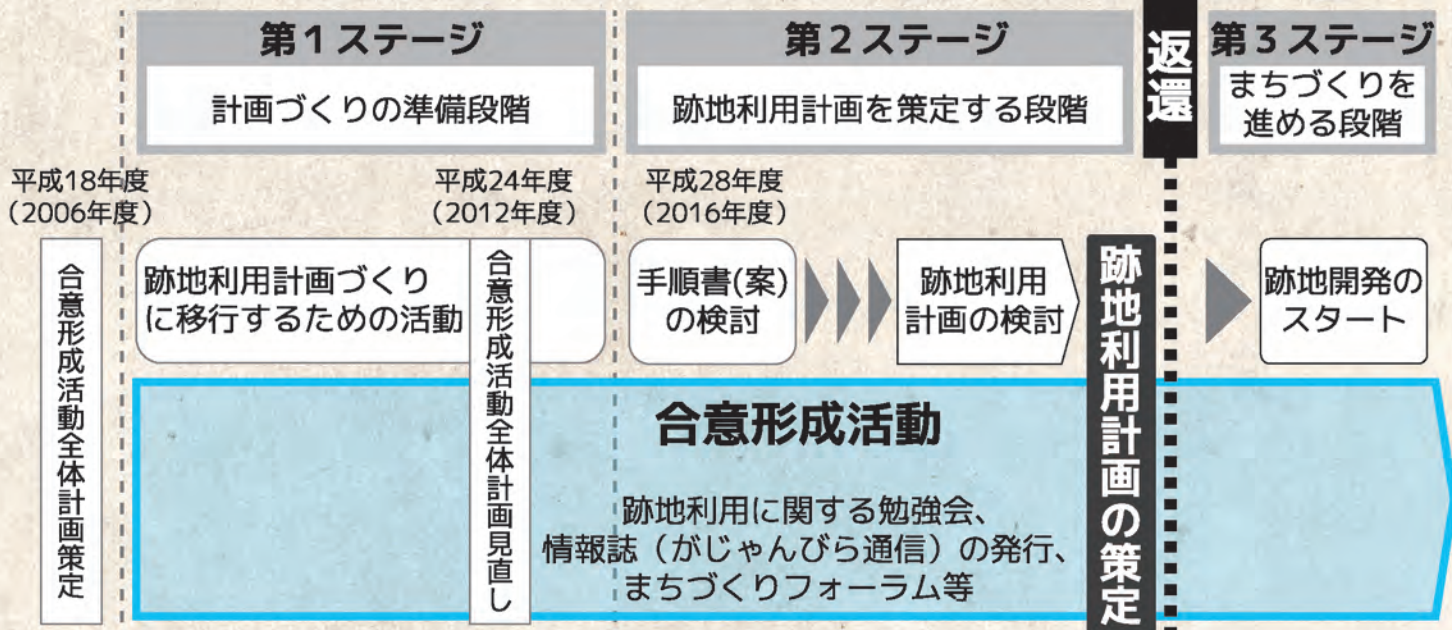
那覇軍港（那覇港湾施設）は、平成25年4月の「沖縄における在日米軍施設・区域に関する統合計画」で、返還条件が満たされ、返還のための必要な手続きの完了後、2028年度（日本国の平成40会計年度）又はその後に返還が可能と返還時期が明示されています。

- 返還区域：約56ヘクタール（全面返還）
- 返還条件：那覇港湾施設の機能の浦添ふ頭に建設される約49ヘクタールの**代替施設**（追加的な集積場を含む。）への**移設**。
- 返還時期：返還条件が満たされ、返還のための必要な手続き完了後、**2028年度**（日本国の平成40会計年度）**又はその後**に返還可能。

今後の取組みについて

跡地利用計画づくりにあたり、その進め方を示す手順書（案）をまとめ、皆様からご意見をいただくための準備を進めているところです。これまで行ってきた地権者等との合意形成活動は中断することなく継続して進めていきます。

**平成40年度
(2028年度)
又はその後**



がじゃんびら通信について

- 過去に実施した合意形成活動アンケート調査やこれまでに開催してきた勉強会等でのアンケート結果をみると、「土地の活用方法」や「那覇軍港に関連する周辺動向」についての関心が高いことがうかがえました。そのことから、今後のがじゃんびら通信では「土地活用に関する内容（手法や事例等）」や「那覇軍港の周辺動向」についても掲載するなど、より充実した情報誌として発行していきます。

那覇軍港跡地利用に関するお問い合わせ・ご相談

那覇市 総務部 平和交流・男女参画課 那覇軍港総合対策室 担当：濱川、又吉(明彦)、知花
TEL：098-861-6906 FAX：098-861-4092
E-mail: S-HEIDAN001@city.naha.lg.jp

那覇市 軍港 検索



戦後70年平和交流キャラクター「ナハトくん」

がじゃんびら通信

2019.1.11

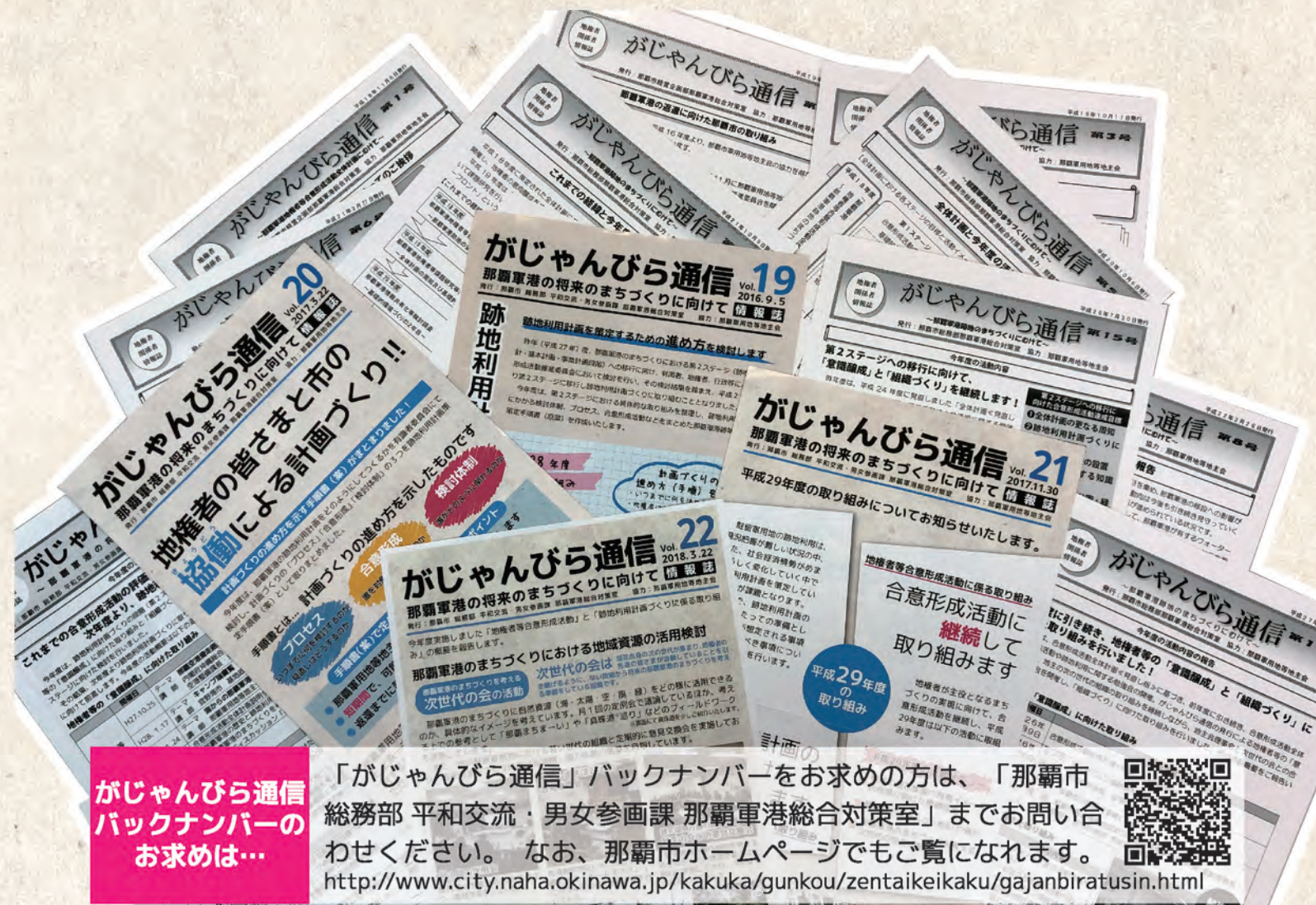
那覇軍港の将来のまちづくりに向けて 情報誌

発行：那覇市 総務部 平和交流・男女参画課 那覇軍港総合対策室 協力：那覇軍用地等地主会

総集編 2006 → 2017 vol. 1~22

12年分のバックナンバーを紹介

がじゃんびら通信は、那覇軍港の将来のまちづくりに向けて、地権者の皆様との情報共有及び合意形成を図る手段として、平成18年11月より那覇軍用地等地主会の協力のもと発行している情報誌です。これまでに第22号まで発行しており、活動内容を中心に掲載してきました。この度、総集編として、バックナンバーの一覧と主な掲載内容をご紹介します。なお、那覇軍港の跡地利用に向けては、平成28年度より跡地利用計画づくりに取り組む段階に移行しており、合意形成がより一層重要となるため、これからも多くの皆さまと情報共有できるよう跡地利用に関する活動や情報を発信していきます。



がじゃんびら通信
バックナンバーの
お求めは...

「がじゃんびら通信」バックナンバーをお求めの方は、「那覇市 総務部 平和交流・男女参画課 那覇軍港総合対策室」までお問い合わせください。なお、那覇市ホームページでもご覧になれます。
<http://www.city.naha.okinawa.jp/kakuka/gunkou/zentaikeikaku/gajanbiratusin.html>



平成18 (2006) 年度 **合意形成活動全体計画※1の策定**

第1号 「がじゃんびら通信」発行にあたってのご挨拶
平成16年度からの活動経緯
平成18年度の活動予定

第2号 平成18年度の活動報告
①地権者意向調査の結果
②地権者等合意形成活動全体計画策定報告

平成19 (2007) 年度

第3号 平成19年度の活動予定

第4号 平成19年度の活動報告
①地理・地勢等に関する基礎調査
②文化財と環境条件の把握
③上位計画と跡地利用の条件整理
④小規模土地の活用方法の検討

平成20 (2008) 年度

第5号 平成20年度の活動予定
那覇軍港の返還に向けた動向

第6号 平成20年度の活動報告
①駐留軍用地跡地に関する既往調査の考え方
②共同利用街区の手法について
③情報の共有化手法及び組織、人材育成

平成21 (2009) 年度

第7号 平成21年度の活動予定
那覇軍港の周辺動向の整理

第8号 平成21年度の活動報告
①港湾周辺動向等の把握
②那覇港の動向の整理
③土地の資産活用
④港湾周辺開発手法の事例研究

平成22 (2010) 年度

第9号 那覇軍港の返還に向けた動向

平成23 (2011) 年度

第10号 平成23年度の活動報告
①これまでの勉強内容のおさらい
②沖縄県における観光産業のこれからとウォーターフロント
③地権者主体の跡利用まちづくりについて (講演会)

平成24 (2012) 年度 **合意形成活動全体計画の見直し**

第11号 平成24年度の活動予定

第12号 平成24年度の活動報告
①これまでの活動内容に関するアンケート調査の結果
②合意形成活動全体計画見直しのポイント

平成25 (2013) 年度

第13号 平成25年度の活動予定

第14号 平成25年度の活動報告
①合意形成活動全体計画 (見直し版) 説明会
②観光動向について
③MICE (マイルス) について
④ (仮称) 那覇軍港のまちづくりを考える次世代の会

平成26 (2014) 年度

第15号 平成26年度の活動予定
那覇軍用地等地主会の動き (大型MICE施設の誘致を要請)

第16号 平成26年度の活動報告
①合意形成活動全体計画 (見直し版) 説明会
②アワセゴルフ場跡地利用と実践について
③那覇市の再開発事業について
④那覇軍港のまちづくりを考える次世代の会

平成27 (2015) 年度

第17号 平成27年度の活動予定

第18号 平成27年度の活動報告
①那覇空港滑走路増設事業について
②キャンプ瑞慶覧 (西普天間住宅地区) 跡地利用計画について
③海からの那覇軍港視察
④合意形成活動全体計画 (見直し版) 説明会
⑤那覇軍港まちづくりフォーラム
⑥那覇軍港のまちづくりを考える次世代の会
⑦合意形成活動アンケート調査の結果
⑧合意形成推進委員会

平成28 (2016) 年度 **手順書 (案) ※2の作成**

第19号 平成28年度の活動予定
那覇軍用地等地主会の動き

第20号 平成28年度の活動報告
①計画づくりの進め方を示す手順書 (案)
②海上からの那覇軍港視察
③那覇市交通基本計画について
④那覇軍港のまちづくりを考える次世代の会

平成29 (2017) 年度

第21号 平成29年度の活動予定

第22号 平成29年度の活動報告
①那覇軍港のまちづくりを考える次世代の会
②戦前の垣花集落の再現に向けた歴史資料の収集
③沖縄中南部圏における開発動向の情報収集及び整理
④真珠道 (まだまみち) の紹介

※1 合意形成活動全体計画とは？

「跡地利用の進め方についての共通認識」を図るための活動を「いつ」「誰が」「誰に対して」「どのように」行うかを体系的にまとめた計画です。(具体的な跡地利用や土地活用等についての計画ではありません)

※2 手順書 (案) とは？

跡地利用計画づくりの進め方を示したものです。計画づくりにあたっての「プロセス (いつまでに何を検討するのか)」「合意形成 (誰を対象に何を行うのか)」「検討体制 (誰がどのように関わるのか)」を案としてまとめています。

掲載内容の紹介

がじゃんびら通信の主な掲載内容をご紹介します。

創刊号

平成18年11月6日発行

地権者
関係者
情報誌

がじゃんびら通信 第1号

～那覇軍港地権者等合意形成活動全体計画にむけて～

発行：那覇市経営企画部那覇軍港総合対策室 協力：那覇軍用地等地主会

「がじゃんびら通信」発行にあたってのご挨拶

那覇市長 翁長 雄志

那覇軍港地権者の皆さまへの情報誌『がじゃんびら通信』を発行するにあたり、ご挨拶申し上げます。那覇軍港の跡地利用については、平成7年度に、市と那覇軍用地等地主会が協力しあって『那覇軍港跡地利用計画』が作られています。しかしながら、昨今の社会状況の変化等もあり、今後は『跡地利用計画』の見直しも必要となってくると考えられます。跡地対策の取り組みは、何よりも地権者等地主会と行政との連携や共通認識が重要です。那覇市は、今日までその具体的な返還月日は明確になっていないことなど様々な課題を整理するため、平成16年度から那覇軍用地等地主会と共に、ワークショップ（勉強会）を続けているところです。この『がじゃんびら通信』が、これからの地権者のみなさまと、市の情報の共有手段としての役割を果たせるよう願っています。

那覇軍用地等地主会会長 我那覇 祥義

那覇軍港地権者の皆様にご挨拶申し上げます。県内駐留軍基地を取り巻く昨今の情勢は、めまぐるしい環境にあります。特に米軍再編の2+2の最終報告は頭越しており、私達那覇軍港地主も不安は隠せない心境であります。しかし、幸いにして那覇軍港返還につきましては、これまで那覇市と地権者等地主会との間で協調・協力体制を構築し、継続的な合意形成活動を行っていただくことで考えが一致しております。そこで「那覇軍港地権者等合意形成活動全体計画」を策定するべく、平成16年度より那覇市と協同してワークショップ等の活動を行ってまいりました。この通信は過去2年間の活動内容を皆様に周知するとともに、不安や心配事を少しでも解決できればと願ひ、皆様と合意形成を図る手段として発行するものです。また、一方的な報告ではなく、平成18年度の総会で軍港地主の意向調査の実施をする決議に基づいて、早速この機会を活用して意向調査票も同封しますので、必ず軍港地主の全員の方々が御回答していただき、御返送していただきますよう、お願い申し上げます。

那覇軍港の返還に向けた動向

那覇軍港の返還については、昭和49年に条件付全部返還に合意して以来、長期間に渡り返還の目途が見えない状況にありました。平成7年の日米合同委員会の浦添ふ頭地区への移設合意以降、平成13年には「那覇港湾施設移設に関する協議会」等が設置されています。平成18年5月1日の日米安全保障協議委員会資料「再編実施のための日米のロードマップ」においては、那覇軍港は「浦添に建設される新たな施設（追加的な集積場を含む。）に移設」という表現がなされ、平成19年3月までに、沖縄に残る施設・区域の統合のための詳細な計画を作成するとされています。

平成
18
(2006)
年度

合意形成活動
全体計画の策定

19
(2007)

20
(2008)

21
(2009)

22
(2010)

23
(2011)

24
(2012)

25
(2013)

26
(2014)

27
(2015)

28
(2016)

29
(2017)

30
(2018)

計画づくりの準備段階

跡地利用計画を策定する段階

合意形成活動
全体計画の見直し

手帳書(案)
の作成

第12号 全体計画見直し方針

全体計画見直しのポイント

跡地利用特措法の施行や中南部都市圏駐留軍用地跡地利用広域構想の策定などの「社会情勢や那覇軍港を取り巻く環境の変化」と「これまでの活動の総括」からの課題として、「全体計画の更なる周知が必要であること」「土地利用に向けた勉強が必要であること」「情報発信の継続が必要であること」を踏まえ、以下を見直し方針としました。

全体計画見直し方針

社会動向の整理と全体計画の検証を踏まえ、今後の合意形成活動を行うにあたっては、

跡地利用計画の計画づくりに取り組みめる環境を整える

ことに重点を置き、「意識醸成」と「組織づくり」に取り組めます。

1 意識醸成

跡地利用の検討にあたっては、今まで以上に多くの地権者が同じ方向を向いていることが重要となることから、多くの地権者が「沖縄が発展していくためにも、次世代のためにも、そして自身の不利益とならないためにも、返還後の跡地利用をしっかりと考えていきたい」という意識を持つようになることを目指します。

2 組織づくり

長期にわたる返還に向けた活動を継続して取り組むためには、今から次代を担う若い世代に参加してもらい、育てていくことが重要となることから、若い世代の組織を立ち上げ、継続した検討ができる環境づくりを目指します。

全体計画見直し版では、跡地利用計画の計画づくりに取り組みめる環境を概ね3年間で整えることを目指して、9つの活動内容を設定するとともに、計画づくりに進むために達成すべき5つの目標を掲げています。

詳しい内容につきましては、同封する全体計画パンフレット版にてご確認ください。

今後の活動

跡地利用計画づくりに向けて意識醸成と組織づくりに取り組みます！

来年度は、全体計画見直し版に基づき、意識醸成と組織づくりを目指して具体的な活動を随時進めていきたいと思ひます。

なお、来年度以降も勉強会の開催を予定しています。より多くの皆様と意見交換をしながら進めていきたいと思ひますので、是非ご参加ください。

「がじゃんびら通信」の内容及び那覇軍港返還に関するお問い合わせ・ご相談は下記までおたずねください。

那覇市 総務部 那覇軍港総合対策室 担当：宇地原、仲宗根、赤嶺
TEL：098-861-6906 FAX：098-861-4092
E-mail：s-heidan@neo.city.naha.okinawa.jp



第14号
「次世代の会」発足

(仮称) 那覇軍港のまちづくりを考える次世代の会

那覇軍港が返還され、跡地利用ができるまでにはまだ年月がかかります。現在の地主が次の世代のことも考えて活動していることを引き継ぎ、将来に希望が持てるような跡地利用の実現に向け、地主になる前から将来のまちづくりを考えるため、地主の次の世代が集まり、「(仮称) 那覇軍港のまちづくりを考える次世代の会」が始まりました。

次の世代の懇談会 懇談会では活動内容等について意見交換を行い、次世代の活動が始まりました。

主なご意見

- 軍港の特徴を共有し、それを踏まえて一番良い跡地利用は何かということを考えていかなければいけないと思う。
- まずは現地を見てから始めるべきだと思うが、軍港内の視察は可能なのか。

「普天間飛行場の跡地を考える若手の会」との意見交換会

10年以上前から活動を続けている、普天間飛行場の地権者もしくはその家族から構成される若手の会との意見交換を行い、継続する秘訣を教えてくださいました。



親睦を深め、跡地利用という共通の目標に向かって取り組んでいける人間関係を築くことができたのも継続の理由のひとつ！

自分たちでやりたいことをやるのが大事！

ギンバル訓練場跡地の視察

跡地に整備された地域医療施設等の内覧会に参加し、金武町役場のご担当者から跡地の概要についてご説明いただき、施設を視察しました。

那覇軍港内の視察

懇談会での「まずは現地を見てから始めるべき」とのご意見を踏まえ、米陸軍の許可のもとで那覇軍港内を視察しました。

今後の活動

第2ステージへの移行に向けて、更なる活動に取り組みます。

来年度は、第2ステージへの移行に向けた合意形成活動達成目標の達成に向けて、合意形成活動全体計画<見直し版>の説明会や跡地利用に向けた勉強会・講演会の開催、次世代の会の活動を継続するとともに、発展的な活動を検討してまいります。

「がじゃんびら通信」の内容及び那覇軍港返還に関するお問い合わせ・ご相談は下記までおたずねください。

那覇市 総務部 那覇軍港総合対策室 担当：宇地原、濱川、赤嶺
TEL：098-861-6906 FAX：098-861-4092
E-mail: s-heidan001@neo.city.naha.okinawa.jp



合意形成活動
全体計画の策定

那覇軍用地等地主会の動き

大型 MICE 施設の誘致を要請！

平成 26 年 6 月 2 日 (月)、那覇軍用地等地主会が市を訪れ、翁長雄志那覇市長に対し、那覇港湾施設内への大型 MICE 施設建設誘致を推進するよう要請を行いました。



大型 MICE 施設は、沖縄県が計画しているもので、国際会議や展示会、企業イベント等のための 2 万人規模の施設を整備するというものです。

地主会の我那覇祥義会長は「共同使用による大型 MICE 施設の整備により、返還後の跡地利用においても当該地域のポテンシャルがさらに高まる」として那覇港湾施設内への積極的な誘致の考えを伝え、地主会としての期待を表明しました。

また、平成 26 年 7 月 18 日 (金) には、県庁へ高良倉吉副知事を訪ね、県が計画する大型 MICE 施設について、那覇港湾施設を共同使用する形で建設するよう要請を行いました。



我那覇祥義会長は「大型 MICE 施設の場所の選定は沖縄県の将来の発展を左右するものである。(那覇港湾施設は) 地の利が良く、歴史的にも沖縄はここを中心に繁栄した。将来の観光・産業振興のために最適地だ」と話し実現を求めました。

合意形成活動全体計画<見直し版> 説明会のご案内

跡地利用計画の計画づくりに取り組める環境を整えるにあたり、地権者の皆さまに今後の活動内容を知っていただき、取り組みに積極的に参加してもらえよう、今年度も合意形成活動全体計画<見直し版>の説明会を開催いたします。

参加
無料

全体計画
とは？



開催時期 平成 26 年 11 月頃を予定

- 開催日時が決まりましたら、別途開催案内にて詳細をご案内します。

場 所 那覇軍用地等地主会館 2 階

那覇市山下町 16 番 9 号 TEL：098-858-4481

「がじゃんびら通信」の内容及び那覇軍港返還に関するお問い合わせ・ご相談は下記までおたずねください。

那覇市 総務部 那覇軍港総合対策室 担当：上原、濱川、又吉、高良
TEL：098-861-6906 FAX：098-861-4092



平成
18
(2006)
年度

19
(2007)

20
(2008)

21
(2009)

22
(2010)

23
(2011)

24
(2012)

25
(2013)

26
(2014)

27
(2015)

28
(2016)

29
(2017)

30
(2018)

計画づくりの準備段階

合意形成活動
全体計画の見直し

跡地利用計画を策定する段階

手順書(案)
の作成

第18号
フォーラム開催

那覇軍港まちづくりフォーラム

沖縄県全体の発展に向けた那覇軍港のまちづくりについて

那覇軍港のまちづくりを考えることを目的に市民・県民フォーラムを開催いたしました。第1回目となる今回、地権者をはじめ市民・県民の皆様从那覇軍港について考えはじめる機会となるよう、那覇軍港の歴史と跡地利用に向けた活動を紹介するとともに、「跡地利用への期待」をテーマに学識者や地権者、市長などが議論しました。

1 「那覇軍港の歴史と跡地利用計画に向けて (PR 映像上映)

県都那覇市に所在する駐留軍用地である那覇軍港には、かつて「垣花」と呼ばれるまちがありました。その垣花の歴史と跡地利用に向けた取り組みを映像で紹介しました。



画：新城喜一氏
がじゃんびらから見た垣花（大正時代）

「那覇軍港のまちづくりを考える次世代の会」活動紹介



との連
●海辺の
●川崎文

「那覇軍港のまちづくりを考える次世代の会」の発足からこれまでの活動内容及び今後の活動について、次世代の会のメンバーのひとりである我那覇茂氏がスライドを用いて紹介しました。

3 パネルディスカッション

パネルディスカッションでは、学識者や地権者、行政といった様々な視点から「跡地利用への期待」について議論していただき、那覇軍港の跡地利用に向けて5つの点が確認されました。

- ①合意形成活動を基礎とした跡地利用計画づくりの始まりであること
- ②ウォーターフロントや歴史など那覇軍港が持つ個性を活かすこと
- ③国際的な交易拠点として沖縄経済を担うほどのポテンシャルを持つこと
- ④西海岸地域における役割分担が重要であること
- ⑤地主会及び次世代の会の活躍が期待されること



平成
18
(2006)
年度

合意形成活動
全体計画の策定

19
(2007)

20
(2008)

21
(2009)

22
(2010)

23
(2011)

24
(2012)

25
(2013)

26
(2014)

27
(2015)

28
(2016)

29
(2017)

30
(2018)

計画づくりの準備段階

跡地利用計画を策定する段階

合意形成活動
全体計画の見直し

手順書(案)
の作成

第20号
手順書(案)の作成

がじゃんびら通信 Vol. 20
2017.3.22
那覇軍港の将来のまちづくりに向けて 情報誌

発行：那覇市 総務部 平和交流・男女参画課 那覇軍港総合対策室 協力：那覇軍用地等地主会

地権者の皆さまと市の
協働による計画づくり!!

計画づくりの進め方を示す手順書(案)がまとまりました!

今年度は、那覇軍港の跡地利用計画をどのようにしてつくるかを有識者委員会にて検討し、計画づくりの「プロセス」「合意形成」「検討体制」の3つを跡地利用計画策定手順書(案)として取りまとめました。

手順書とは... 計画づくりの進め方を示したものです

プロセス
いつまでに何を検討するのが
見直しはどうするのか

合意形成
誰を対象に何を行うのか

検討体制
誰がどのように関わるのか

手順書(案)で定めている「計画づくり」のポイント

- 那覇軍用地等地主会と那覇市が**共同**で検討・作成します
- **短期間**で、可能な限り**具体的な計画**を作成します
- 返還までに起こり得る**変化**に応じて**柔軟**に見直します

那覇軍用地等地主会の我那覇祥義会長と上原一夫副会長に、手順書(案)を検討する委員会の委員として参加していただきました

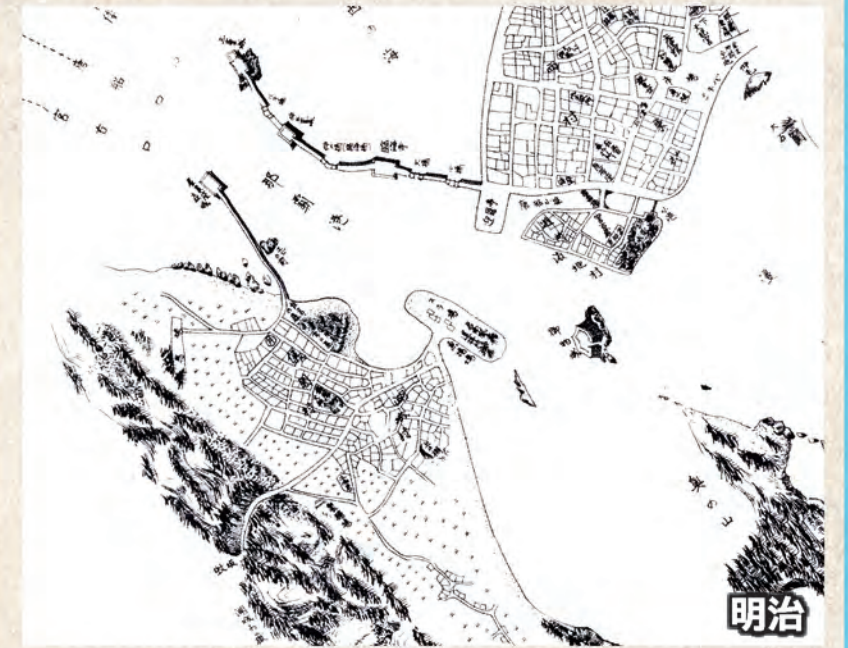


一番左が我那覇祥義会長、隣が上原一夫副会長

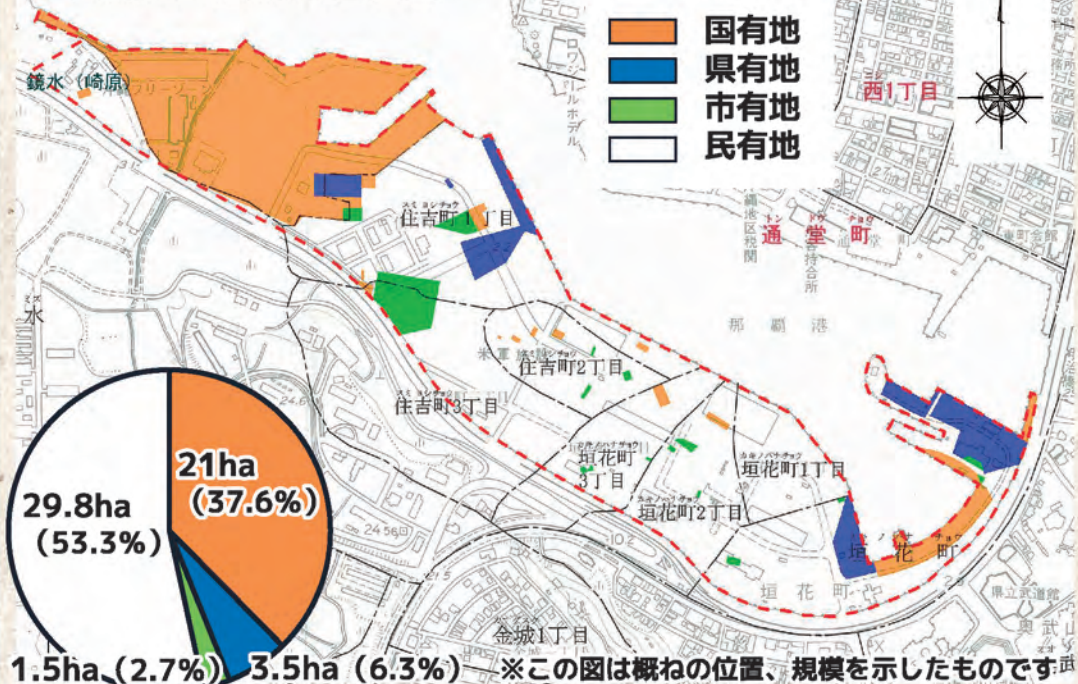
那覇軍港基礎資料



●変遷



●国有地・公有地位置図



●埋立図 (推定)

